

新しい『御守り袋』のご提案

神道では大麻（おおあさ）は神聖な植物とされています。

事実、日本は1万年以上前の縄文時代から「麻の国」としていたる所で麻が栽培され、多くの日常生活資材としても無くてはならない植物でした。戦前も大麻草は三草（麻、藍、紅花）四木（桑、茶、楮、漆）の中のひとつとして珍重されていました。戦後、栽培許可植物となってからも伝統として現在でも鈴縄、注連縄、弓弦、横綱の化粧回しなどに使われています。神社では麻の鈴縄だけでなく、神聖なところには、結界を張る意味で麻紐が使われたり、御幣（ヌサ）にも精麻（麻の繊維）が垂れ下がっています。

さて、「御守り」は神社の御祭神や御寺様の御本尊が宿るとされています。

然るに、「御守り」の素材や中身は残念ながらこの神聖さを必ずしも象徴出来ない場合が多く見受けられます。

そこで、大麻草の繊維から作った布袋と「米と麻の天然樹脂」を中身として使用した「**地球に優しい天然素材の御守り**」を作成しました。

御利益も信心も媒介となるモノが似非物であってはならないと考えます。

● 布

糸の番手を変えたドビー織り。

緯糸は社会と経済の発展、経糸は個人の健康と発展を願って織った布です。

● 染

冠位12階を参考に草木の染料を使用しました。堅牢性を守る為、媒染剤ではなく、化学染料3%まで色素を守る金属として使用した新しい染色法です。

麻布の染色は日本の天然染めの第一人者である菱川恵佑氏が手掛けます。

● INASO樹脂

古古米から生成した樹脂におお麻の木質を混ぜた画期的な天然エコプラスチックです。INASOとは稲+麻から取った商標です。

米も麻も日本人の文化の拠り所です。廃棄前の備蓄米と和の暮らしを支えた麻の両方を復活させることで、エコの象徴足りうる「**日本独自の天然素材**」として提案致します。